

2023 年度 0 時間目の記録

2023 年 5 月 15 日(月)~21 日(日)

栽培中の植物

- ジニアプロフェーション
- エダマメ
- バジル
- コリウス
- マリーゴールド
- センニチコウ
-
-

栽培管理内容

日時	天気	気温(℃)	管理・植物の様子・指導
		最高(℃)	
		最低(℃)	
5/15(月) 8:30	晴れ	気温(19℃)	<ul style="list-style-type: none"> ● オルトラン粒剤を使用した。 ● 灌水行った。
		最高(31℃)	
		最低(14℃)	
5/16(火) 8:30	晴れ	気温(21℃)	<ul style="list-style-type: none"> ● ホースの使い方の説明。 水を出して水温と水圧を必ず確認する。ホース内に水が残っていると初めに出てくる水温が高くなっている可能性あり。特に夏場は注意する。 ホース巻き取り機の向きは、灌水中にねじれが生じてホースの水の出が悪くならないような位置に向けてからホースを伸ばす。 ポットの端から灌水し、ウォータースペースにしっかりと水がたまるまで行う。 水を止めた後はホース内に水が残らないようにレバーを握り、水を出し切る。 きれいにしまう。 畑などでは伸ばしたホースが植物に当たらない様に注意する。 ● ホースとジョウロで灌水を行った。 ● 分区園のナス、キュウリなどは葉の状態を確認し灌水を行うこと。葉柄は45度、葉身は水平が良い状態。しおれている場合は水分が足りていない可能性があるため灌水を行う。 ● 茎の傷口から細菌が入り、繁殖すると導管が詰まり、水分が吸収できずしおれてしまうことがある。 ● 植物に傷ができると細菌が侵入しやすくなる。灌水、移植、
		最高(32℃)	
		最低(9℃)	

2023 年度 0 時間目の記録

			<p>泥の付着など植物が傷つかないように扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 細菌やカビ(糸状菌)が繁殖している苗を見つけた際は SS トレイから取り出し、他の苗に細菌やカビが感染しないようにする。場合によっては苗をポットごと廃棄する。 ● 病気で弱った葉や、枯れた葉には、灰色カビ病が付きやすい。二次的に灰色カビ病になってしまう可能性があるため、見つけた際は摘み取る。
5/17(水) 8:30	雨のち晴れ	気温(29℃)	<ul style="list-style-type: none"> ● マリーゴールドは 6 月に花壇へ定植することを考え、株を老化させないために咲いている花を摘んでおく。(花壇のデザインを考えるときに色が分かるように一輪は咲いている状態にしておく) ● コリウスを植木鉢からポットに移植した。 ● 移植のポイント: 苗が小さいので、いきなり 2.5 号ポリポットに植えても、土が乾かずに根が生育不良となることが予想された。そこで、ポットの底にゴロ土を二層ほど入れて通気性を良くした。。苗を一つずつ外していく時に根が少し切れるのは仕方がないが、できるだけ切らないようにゆっくり分ける。根は、土の中に完全に入るようにする。土をしっかり鎮圧する。 ● 植物の土の渴きを防ぐために遮光用の寒冷紗を半分閉めた。
		最高(30℃)	
		最低(16℃)	
5/18(木) 8:30	晴れ	気温(28℃)	<ul style="list-style-type: none"> ● 移植したコリウスは根が切れて弱っている可能性があり、水が吸えない。できるだけ水分の蒸散を防ぐため、日陰に置く。 ● ナメクジの被害がみられたので、通り道になりそうな支柱の近くに駆除剤を追加した。 ● ハダニは高温乾燥の環境で活発に繁殖する。葉裏に寄生し、植物の体液を吸うことで葉の裏に白い斑点が残る。対策として、ハダニ専用の農薬を散布するが、ハダニが抵抗性を持ち、殺虫効果が低下しないように、成分の違うものを 2-3 種類、ローテーションして使う。1 回散布した後、卵がかえる 1 週間から 10 日後にまた散布する。また他の植物を温室外から持ち込んだ際にハダニと一緒に入ることがあるので、植物を持ち込む際は、葉裏をよく見ておくとともに、他の植物に葉が触れないように離して置くとよい。 ● いつ被害があるかはわからないので、植物を毎日よく観察し、惰性で植物を見ないように。 ● 風が強くなったため、午後から窓を閉めた。
		最高(34℃)	
		最低(18℃)	

2023 年度 0 時間目の記録

5/19(金) 8:30	雨	気温(18℃)	<ul style="list-style-type: none"> ● ジニア葉の先端が茶色くなっている。植物自体の特徴によるものか、環境(水、光、温度、養分、病気、害虫)によるものか、人によるものか、あるいは、このうちのいくつかが原因かを考える。今回は、同じ位置の葉が変色しているので、1匹から数匹の虫の仕業というよりは、被害があった時に細胞分裂が盛んで成長期にあった葉が一斉に被害を受けるような何かの原因と考えられる。その原因には、水切れか高温が考えられる。 ● 毎日植物を観察して見る目を養うこと。 ● 雨の日は湿度が高く、換気が悪いためカビの胞子が飛びやすく発芽して病気が出やすい。 ● コキアの葉がスリップスに噛まれた可能性あり。これからの時期は、ハダニ、スリップス(アザミウマ)に注意。 ● サルビアにアブラムシがいたため、お酢守を散布した。 ● ナメクジ対策としてペットボトルの仕掛けを作り、中にビール入れ、設置した。
		最高(29℃)	
		最低(18℃)	
5/20(土)	晴れ	気温(23.5℃)	<ul style="list-style-type: none"> ● 寒冷紗を半分閉じた。 ● ペチュニアの花から摘みをした。 ● ビールの仕掛けは特に変化はなかった。 ● 乾いていた苗に灌水を行った。
		最高(23.5℃)	
		最低(16℃)	
5/21(日)	晴れ	気温(24℃)	<ul style="list-style-type: none"> ● サルビアサクラプルコ・ヘリクリサムにアブラムシが大量に発生していたためオルトランを使用した。 ● 乾いていた苗に灌水を行った。
		最高(26℃)	
		最低(16℃)	

写真



5/16 (火)ホースの使い方 矢印(黄色)の方向に灌水する苗があるので、ホースがねじれないように巻き取り機も同方向を向ける

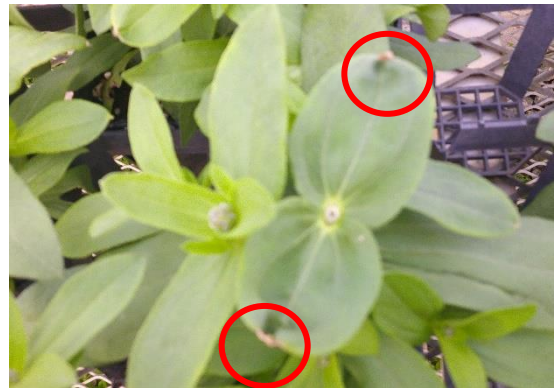


5/16 (火) 細菌感染で茎がしおれて葉が枯れた(赤枠内)後、灰色カビ病(黄枠内)が発生したと思われる

2023 年度 0 時間目の記録



5/ 17 (水) コリウスの移植



5/ 19 (金) ジニアの葉先が変色



5/ 20 (土) ナメクジ捕獲用のビールの仕掛け